

〔倭訓栞前編十八〕とし 年をよむも疾の義也文選に年往迅勁矢といへり左傳正義に年歲載祀

異代殊名而其實一也と見えたり

〔古事記傳九〕年は田寄なり多余を切て登となる。さて余世を余然云故はまづ登志とは穀のこと

なる其は神の御靈以て田に成して天皇に寄奉賜ふゆるに云り田より寄すと云こゝに祈年

祭祝詞に皇神等能依左志奉牟奥津御年乎云々八束穗能伊加志穗爾皇神等能依左志奉者云々

とあるを以知べし天下に成とし成る穀は悉く天皇にさて穀を一度取收るを一年とは云なり

にされば登志と云名は穀を本

〔八雲御抄三上〕年 としなみ としのを としのは 萬年はづよる 千年はちと 五百年はほい

せと 百年はともい 八十年はぢやそ 七十年はそぢい 六む 五い 四よ 三み 廿はた

〔書言字考節用集二〕候イロイロ幾年 年矢イタ日ヒ月ツキ迅イサ速ハヤ流ナリ年トシ如ニ箭ヤ催メ人ト易カ老シ也ナリ 年トシ緒ツ年トシ來キ年トシ次ツ年トシ毎トシ年トシ數トシ年トシ

業ノ比ヒ年トシ比ヒ近チカ也ナリ 累ツ年トシ連ツ年トシ也ナリ 多タ年トシ積ツ年トシ積ツ年トシ並ツ同シ 他タ年トシ連ツ年トシ比ヒ歲トシ多タ 毎トシ年トシ義トシ同シ 後ノチ年トシ數トシ年トシ

〔和爾雅二〕嗣ツ歲トシ比ヒ歲トシ海ウミ歲トシ再ヒ歲トシ頻ツ年トシ也ナリ 積ツ歲トシ多タ年トシ 累ツ歲トシ連ツ年トシ也ナリ

〔倭訓栞前編十八〕としなみ 年次の義月次日次といふがごとし歌には多く波に寄たり

としのを 萬葉集續日本紀の宣命に年緒と書りよて長く絶ぬ意又むすぶなど屬けり緒は年

年のつなぎをいふ成べし俗に命の綱などいふめり西土にも心緒愁緒などの語あり又年の尾

の義にもよめりといへり

〔倭訓栞中編十六〕としのや 年次のはやく過行をいふ光陰如矢の意也千字文に年矢每催と見

えたり

としのは 萬葉集に毎年謂等之乃波と見えたり

としごろ 眞名伊勢物語に年來と填られたり今音にもいへり